

桜の花が満開です。お花見には行かれましたか？
でも、花冷えとはよく言ったもので、ここに来て急に寒くなったり
体調を崩される人が多いようです。
最近、本当に美しい国って美しい日本ってどういう国を言うのかな
と考えています。先人達の俳句に詠まれた日本には、
本当に豊かな感じの美しさがあるような気がします。
物質的には恵まれていなくても...

今回もうさおさんと健さんから投句をいただきました。
まずうさおさんの句です。



陽炎の揺れて鉄路に明治見ゆ

古くからある鉄路・・・

陽炎の向こうに古き良き時代が見えてきますね。
季語の陽炎だけで揺れるという言葉は省略できます。

* 陽炎や鉄路に明治浮かび来る



鉄橋の石垣洗う春の海

このままで良いと思いますが文語体を使われるなら洗うは洗ふです。
春の海と関連を持たせるために洗ひとすると流れがよりスムーズに。

* 鉄橋の石垣洗ひ春の海



お台場と思しき垣に沈丁花

思しき・・・が引っかかります。作者の主観はなるべく避ける方が良いのです。
沈丁花に焦点をあてた方が句がはっきりしてきます。

* お台場の垣に香ほのか沈丁花



埋め立てし海を住まいに摩天楼

埋立地に建ったマンションでしょうか。同じ事でも少しの言い回しで、
雰囲気違ってきます。この場合は切れ字の効果をねらってみましょう。
風刺っぽさもより出てきます。

* 埋め立ての海に暮らすや摩天楼



象の鼻メリケン埠(はとば)も春めきて

象の鼻という名称があるのでしょうか？中八になっているので、少し
無理があるかもわかりませんが、思い切って上五を字余りにして、中七に
拘りました。下五は春めきぬと結んだ方が、句がしまるように思います。

* 象の鼻てふメリケン埠春めきぬ



花舞うも見る人も無き子安浜

見る人も無き・・・では桜が可哀想な感じがするので中七をひそやかに・・・
にして、上五下五を入れ替えました。

* 子安浜ひそやかに花舞ひにけり

うさおさんの句の中で摩天楼の句がありますが、この句の目のつけどころが



すごく良いな～と感心しました。他の句も全般的に散歩の途中とか、遠出をされた時の景色を上手に捕らえていらっしゃると思います。後は省略できるところは省略して省略の文学（十七文字しかないのですから）を楽しんでいただけると良いと思います。

続いて健さんの句です。



春雷や高架の下に赤提灯

本来夏の季語である雷、春の雷は少し弱くどこか淋しさまで漂います。何気ない感じに詠んでおられますが赤提灯と季語の取り合わせが素晴らしいと思います。中七の高架の下に・・・が説明っぽい感じもするので、下の方に・・・の方が良いかも・・・

* 春雷や高架の下の赤提灯



足湯する展望庭園風光る

この句も季語で生きていますね。何も説明しなくても季語の風光るで展望庭園の様子がよく見えてきます。ただ足湯するが少し気にかかります。

* 足湯ある展望庭園風光る



珈琲に作る星雲春兆す

一読では意味がわかりにくい気もしますが、コーヒーの中にミルクを垂らした時の渦を星雲に見立てたものだとの事、このままで面白いとも思うのですが、健さんが平凡かも・・・と書かれた

「珈琲に多めのミルク日脚伸ぶ」も良いと思います。

* 珈琲の白き星雲春兆す

健さんも何気ない景色を句にされるのがお上手ですね。この調子で沢山作句されるとますます腕が上がりますよ。（なかなか作句出来ない私が言うのも何なのですが・・・）



今年は3月の下旬から風邪を引いたり体調不良で締め切りを大幅に過ぎてしまいました。ご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。4月5月と良い季節に突入です。ゴールデンウィークの計画を立てられている方も多いと思います。お出掛けの時はぜひ一句！またの投句お待ちしております。



長閑さや港の猫の四肢緩ぶ

フルートの音色にふくれ春の月 ゆうこ

